令和6年度宮城県交通安全ポスター作文コンクール入賞作品【作文の部】

中学校の部

＊作品は原文のまま掲載しています。

宮城県知事賞

自転車の交通安全

石巻市立石巻中学校　三年　杉浦泰地

私が自転車に乗って出掛けるとき、決まって母は「生きて帰ってきなさいよ」と言います。

私は、友人と遊ぶときや習い事に行くときには自転車を多く使用します。これまでは、自転車に乗っていて怖いと感じたことはなかったのですが、先日、習い事を終えて近所の細い道の端を自転車で走っていると、自分の後ろ側に気配を感じて振り返りました。すると、すぐ後ろで車が私を追い抜こうとしており、私は驚き転倒しそうになりました。私が車の存在に気付かないまま車道側へ寄っていたら大きな事故になっていたかもしれないと考えると怖くなりました。

帰ってから父にこのことを話すと、「今はハイブリット車や電気自動車が増えてきて、エンジン音が静かな車が多くなっていることも、自転車に危険が迫っていることに気付くのが、遅れる一つの原因になっているのではないか」と言われました。

宮城県内で昨年発生した交通事故のうち、五百件を超える事故が自転車に関係するもので、そのうち三件が自転車に乗っていた方が亡くなられたそうです。私の勝手な認識では、車が自転車に配慮してくれるものと思っていましたが、急いでいたり自転車を邪魔と感じて車を運転するドライバーの方もいたりして、自転車に乗ることは事故と隣り合わせなのだと強く感じました。

私が自転車に乗っているときに、イヤホンをしている人や携帯電話を片手に持ちながら自転車に乗っている人とすれ違うことがあります。イヤホンをしたり携帯電話を操作したりしていない自分が身の危険を感じるのだから、この人達はたまたま運良く事故に遭わないだけで、非常に危険な行為であると思います。

交通事故のそのほとんどは偶発的に発生するものであり、起こそうと思って発生するものではありません。しかし、車や自転車、その他歩行者など道路を利用する全ての方が交通ルールを守り、譲り合いや配慮する気持ちを持つことにより、交通事故を無くすことは難しくても、減らすことは可能だと思います。

私が自転車に乗るとき、母がいつも口癖のように言う「生きて帰ってきなさいよ」の言葉を忘れずいつでも心に留め、生きて帰ることが当たり前であることに変わりがないように、これからも交通安全を心掛けて自転車に乗りたいと思います。

宮城県警察本部長賞

身の回りに潜む危険

仙台市立折立中学校　二年　佐藤沙映

年々交通事故死亡者数が減っていますが、完全に交通事故がなくなったということではありません。そんな世の中で私たちはどう身を守れば良いのか、どうすれば全体の交通事故がなくなるのかを私は考えました。

交通事故の中でも多いのは、人と車の事故だそうです。車と人だとどうしても人の方が大きな怪我になりやすいため歩行者よりも車やバイク側の過失が大きくなりやすいです。ですが、もし車側はちゃんと運転していて歩行者側が急に飛び出してきたら、もちろん車側が悪くなりますが、私は急に飛び出した歩行者側も悪くないとは言えないと思います。そのためにも車側が気をつけるだけでなく、歩行者側も気をつけることが大事だと思います。なので私は歩行者側の視点になって考えました。私はバスに乗る時方向的に反対側に渡らなければいけないのですが、近くには信号がないため、道路を渡るか、少し歩いて信号まで行って横断歩道を渡らなければいけません。もちろん距離や時間を考えると道路をそのまま渡る方が近く、早く着くので楽ですが、その道路は道路側にも信号が少なく、スピードを出す車もいるので大変危険です。また、近くにはお店もあるのでそこに出入りする車も多く危ないです。そう考えると時間を使ってでも信号まで歩いて横断歩道を渡った方が安全です。なので、普段から横断歩道で渡る意識を持ったり、癖をつけることが重要だと思いました。でも、ただ渡れば良いということではありません。歩行者側の信号が青信号でも信号無視をする車がいるかもしれません。また、家などの影になって歩行車側から車が見えづらい所もあります。実際に私が小学校に通っていた時の通学路の途中に堀があり、ちょうど身長が隠れるため少し前に出ないと車側も歩行者側もお互いの存在に気づかないような場所がありました。もし、どちらかが急に飛び出したり、スピードを出したりしたら大変危険です。そのようなことから身を守るためにも左右を確認して渡ることが大事だと思いました。また、今の時代だと歩きスマホなどをしている人もいるので危ないと思いました。

今回、歩行者側の視点から思ったことは、道路にはたくさん危険なことが潜んでいるということです。運転者か、歩行者のどちらかが気をつけるのではなく、どちらも気をつけることが大事だと思いました。車と人がぶつかったら車側が悪くなってしまいますが、歩行者側も歩く時には、信号を使ったり、いつもより多く周りを見たり、少し工夫することで意識が変わり、癖がつくと思います。小さなことでも意識することが交通事故をなくす一歩になると思いました。

令和6年度宮城県交通安全ポスター作文コンクール入賞作品【作文の部】

中学校の部

＊作品は原文のまま掲載しています。

宮城県教育委員会教育長賞

ありがとうを忘れずに

石巻市立石巻中学校　二年　鈴木梨央奈

止まろう、横断歩道。宮城県は横断歩道での車の停止率ワースト・・・」小学校中学年の頃、リビングでバラエティー番組を家族で談笑しながら見ていた際、そんなコマーシャルが流れてきたのを覚えています。当時は「ワースト」という言葉の意味も分からず、近くにいた両親に、「ワーストってなあに？」と問うと、「最下位って意味だよ」と、車をいつも運転しているはずの両親に、普段と変わらない声色で返され、酷くショックを受けた記憶があります。なぜそんなにもショックを受けたのか、と今になって考えてみると、私の記憶にあった車は、ほとんど止まってくれていたし、宮城は優しい人が多い、止まってくれる人も沢山いると思っていたからです。尚且つ、それをなんとも思っていないような、親の声に幼いながら複雑な気持ちになりました。

・・・やっぱり、止まってくれる人の方が珍しいの？

次の日の朝、昨日のことが頭から離れず、スッキリしない頭で、悶々とそんなことを考えながら兄と共に通学路を歩いていました。昨日のコマーシャルは本当のことなのか、と検証も含めて歩いてみたところ、やっぱり、コマーシャルの通りに、止まってくれない車も数台いて、どうしたらみんな止まってくれるのだろう」と首をひねりながら、そんなことをずうっと考えていました。

でも、その年のある日、朝会で校長先生が仰ったのです。横断歩道を渡ったあとは、頭を下げて運転手さんに「止まってくれてありがとう」というお礼をしましょう」この言葉が耳に入った瞬間、まさに「これだ」と思いました。お礼や感謝は、誰がされても嬉しいものなので、これを続けていれば、車の運転手さんも、みんな気持ちよく過ごせるのではないか、といった自分なりの考察に、期待で胸が膨らみました。

この日から私はずっと、横断歩道を渡った後は、運転手さんの方に向き直り、目を見て頭を下げる」ということを徹底しています。これはもう癖になっていて、自分ではなんとも思っていませんでしたが、友達と遊んだ際 ちゃんと頭を下げるのは偉いね！」とほめられて嬉しく、続けていてよかったと思いました。

今となっては宮城県は横断歩道前での車の停止率は全国四位とトップクラスになりましたが、当たり前のように止まってくれる運転手さんへの感謝を忘れず、お互いがお互いを思いやって生きていくことが大切だと思いました。

一般社団法人 宮城県交通安全協会長賞

ヘルメット

岩沼市立岩沼北中学校　三年　鈴木陸斗

令和五年四月一日から、改正道路交通法の施行により全ての自転車利用車のヘルメット着用が努力義務化されました。私は、学校に自転車通学をしています。しかし、ヘルメットをかぶる事がいやです。理由は、まずかぶると暑くなるし、髪の毛がつぶれてしまうし何よりもヘルメットを着用している時の見た目が変だからです。なので、かぶらずに通学した事がありました。それをたまたま学校の先生に見つかり注意を受けました。注意を受けた時は、別に誰にも迷惑がかかっている訳でもないのに、なんでそこまできびしく言ってくるのかが分からなかった。家族とも話したがやはり納得できずもやもやした気持ちだった。

そこから数日たったある日、テレビのニュースで一つの事故の話題が流れ、ドキッとしました。静岡県で小学生の男の子が自転車に乗っていて、車と交差点で衝突したという事故でした。その男の子は頭を強くぶつけ、意識不明の重体でした。そしてヘルメットをかぶっていなかったという事でした。頭以外に外傷はなく、ヘルメットさえかぶっていれば大事にはいたらなかったのではないかと推測されていました。このニュースを見た時、他人事ではないと思い、しばらくニュースを見続けた事は今でもよく覚えています。そしてすぐに自分の行動を反省しました。たかがヘルメット一つで命が左右されてしまうのだということに気付かされました。警視庁のホームページを検索してみると、自転車死亡事故の約六十五パーセントが頭部に致命傷を負っていて、また着用している場合と比較して、着用していない場合の致死率は約二・七倍と高くなっているようです。静岡県のニュースをきっかけに自分でもいろいろと調べてみると、ヘルメットの着用が努力義務化された理由が分かってきました。

暑い、見た目が悪いなどの理由でヘルメットをかぶることに抵抗していた私だったが、そんな自分が少し恥ずかしいと思った。また、口うるさいと思ってしまった学校の先生や親に対して、自分のことを心配してくれての事だったと感しありがたいと思った。その人達のためだけではなく、自分の身を守るための一つの命綱なんだということを忘れずに自転車に乗る時はヘルメットをかぶろうと思います。暑いし、見た目も変ということは確かです。しかし自分の命を守る事の方が大事だと気づけたからです。

中学校の部

＊作品は原文のまま掲載しています。

宮城県PTA連合会長賞

事故に遭う前に

岩沼市立岩沼中学校　一年　鈴木璃緒奈

ある日のこと、私は学校で友達と遊ぶ約束をしました。友達の家に行くことになり、私はすぐに学校から家に帰りました。待たせては悪いと思ったので急いで準備して家を飛び出していきました。自転車もギアを最大まで上げて、いつもより速く漕ぎました。

向かっている途中に、へいが高くて周りが見えにくい十字路がありました。いつもは危ないので、右左をよく見てしっかりと確認していましたが、その日は急いでいたので、いつもより右左をよく見ていませんでした。なおざりに見た道には車や自転車の影はなかったと判断し、前に進もうとした瞬間、車が出てきたのです。私はすぐにブレーキをかけて止まり、車も私に気づいて止まってくれました。車はいないと思っていたので、車が出てきてすごく驚き、とてもヒヤッとしました。車が止まってくれたから怪我がなく、よかったのですが、もし車が止まらずに、あるいはもう少し前に出ていたらと考えると、今でも恐くてたまりません。通学路でも使っている、いつもの道だからこそ油断に繋がってしまったのだと思います。

私はあの経験があってから、そのようなことがないように、どんなに急いでいても道を渡るときは、右左をよく見て確認してから渡るようにしています。また、弟がどこかに行く時には、右左をよく見てから渡るように呼びかけています。

私の周りには、たくさんの危険があることも改めて実感しました。この前、道が細くて車が二台通る時に、歩道の白線に少し入っていて危ないと思いました。また、私の通学路だけでも、へいが高くて信号がない十字路や、細くて狭い道など、色々な危険が待っています。少しの油断で怪我をしたり、命を落としたりしないように、小さなことでも危機感を持って通行しています。

私達の周りに様々な危険が待っている中、ふれあいパトロールの方々は見守ってくれています。私が道を渡る時に、後ろから車が来ていることを優しく教えてくれました。とてもありがたかったです。他にも、並列で走っている自転車通学の子に、危ないと注意していました。私達が安全に登下校できているのも、ふれあいパトロールの方々のおかげです。私なりに交通安全を考えてみると、左側を走行する、右左をよく見てから渡る、二人乗りはしない、並んで走らないなどが思い浮かびました。私はあの経験があってからは、改めて交通安全について振り返り、このようなことを心掛けています。

私は、自分の経験から、事故に遭う前に、交通安全についてよく考えることが大切だと思いました。楽しく中学校生活を送るためにも、時間に余裕を持ち、ルールを守りながらよりよく自転車を活用して、楽しく中学校生活を送りたいです。

作文の部　応募作品数

小学校１～３年生の部	１７作品
小学校４～６年生の部	６４作品
中学校の部	６９作品
合　　計	１５０作品